

地域創生課長 決裁のスピードアップという点では、専決が1つであります。

特に町長の判断を仰ぐもので急を要する場合、持ち回りという形で、直接町長に口頭で報告して判断を仰ぐというふうな方法をとっております。

地域おこし協力隊員は、町に2名来ていますが、国も地域おこし協力隊員の増員計画がある



地域おこし協力隊員

というふうな情報を得ております。その場合に素早く対応できるように、追加の募集、採用の計画が、副町長から指示が出まして、これに着手をしているところですよ。

文化財保護について

議員 文化財の数ほどのくらいあり、現在、保護の必要性のある文化財はあるのか。

教育課長 国指定史跡の荒船・東谷風穴蚕種貯蔵所跡1件、県の指定史跡の高橋道斎の墓1件、町の指定史跡、重要文化財、天然記念物を合わせて23件の合計

25件あります。

議員 副町長が福岡からわざわざおいでになって、下仁田町が地方再生の成功事例になるというところが、町にとっても、副町長にとっても一番良いことだと思いますので、できる支援はさせていただきます。

町のあるべき姿、将来像について



島崎 紘一 議員

議員 2040年に町の人口は3847人に減少するとの推計であるが、現状の減少だと2030年には国の予想に達する。この現実をどう捉えているか。

町長 非常に懸念している数値で、歯止め的なものを模索しながら少子化対策、定住化対策等々に実現すべく努力しているところです。

議員 地域創生のリダーとして具体的な計画、構想については、

町長 雇用を創出して地域を活性化させる事業として山林の整備、除間伐の促進、年間安定供給出来る無農薬野菜の供給、地域ブランド

移住者として選択していく余地がある。

うきは市役所を退職して来ているので戻る気持ちはない。移住できるような環境もしっかりと持って地方創生に取り組んでいきたい。家族が呼べるような形がとれば最高かなと思っている。

地域創生課長 働く場所と生活環境だと思おう。生まれた町は良い所だったと大人になって言えること。

議員 それぞれの理由、条件を政策に生かすことが重要だ。住んでいる人達の幸福度、魅力度ランキングが向上しないと政策が生きてこない。その観点からは、

町長 人口減少に伴い保育園民営化、統合小学校等を進めてきた。今後はより良い面を活かしての地域連携、たと思っている。

議員 数年前から下仁田町議会が中心となって近隣町村議会との協議会を発足させ交流を深

めている。町村間の連携は。

副町長 地域連携には様々な地方創生関連の施策が出ている。多野郡、甘楽郡と一緒にやって取り組んでいく事が大きなポイントです。自治体だけでなく産学官連携の推進も図っていきたい。

議員 下仁田町が、核となつて少なくとも南牧村、上野村、神流町との地域連携は早急にやるべきでは。

町長 すぐに取り組めるのは道の駅を中心とした観光と位置付けており、その踏み出しをしたいと思います。

議員 メリットが明確にないと住民の理解も得られない。商工観光業、農林業、教育等々各組織の代表、首長、議会を含めた地域連携プロジェクトチーム編成の考えは。

町長 地域創生に絡めて一緒に進めていきたい。

議員 高齢化の進む地域対策の取り組み状況